

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：32506

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520626

研究課題名（和文） 外国語活動のための語彙・表現集の作成

研究課題名（英文） Developing a vocabulary list for foreign language activities

研究代表者

磯 達夫（ISO TATSUO）

麗澤大学・外国語学部・准教授

研究者番号：40438916

研究成果の概要（和文）：本研究の結果から、小学校における外国語活動のための語彙・表現集は（1）小学校教科書に含まれるカタカナ英語や学校周辺で見られるアルファベット表記の語が「英語」として通用する語かどうかについての表記がなされる必要があることが明らかとなった。また、同語彙・表現集は（2）それらの語の正しい音声情報を提供し、「音声と意味」のつながりをより強化しながらも、積極的な文字指導も考えていくための道具である必要があることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The results of this research have shown that a word list for elementary school foreign language activity should include information about the intelligibility of *katakana English* (English loanwords) and Japanized English words. Such a list should also function as a tool to strengthen the sound-meaning mapping of words to a greater degree as well as to foster connections between word form and meaning.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：早期外国語教育

1. 研究開始当初の背景

2011 年の小学校「外国語活動」必修化を受け、小学校における英語教育に急速に関心が高まった。実際には約 30 年も以前にすでに児童英語教育の方法論(例:山本(1983), 小神野(1984))や児童英語教育の是非や本質(例:北村(1983), 樋口(1983))などの研究が行われてきた。

近年では、小学校での英語教育が以前より盛んになり、それに伴って、教師が求める情報もより具体的なものとなった。とりわけ、指導の内容や方法に関する情報が多く書籍

やインターネット等に公開されている。

また、小学校での英語教育が盛んになるに従って、現代日本の教育事情に即した研究が盛んに行われるようになった。特に、湯川・高梨・小山(2007;2008b)に代表される中学校との連携という観点に大きな注目が集まっている。さらに、町田・小林・長谷川信子(2003)による早期英語教育向けの語彙表の作成や、外国語活動の指導基準とされる「英語ノート」語彙の特徴の分析(神谷・長谷川・町田・長谷部, 2009)など、外国語活動における「語彙」にも注目が集まっている。

第2 言語の習得において、語彙が欠くことのできない要素であることから考えても、これらの研究は重要である。

しかしながら、こうした優れた研究が存在するにもかかわらず、現場の指導者の混乱が解消されているわけではない。その理由の一つとして、これらの情報が英語を専門とする教員や研究者から発信されるものであるのに対して、これから外国語活動を指導する教員のほとんどは英語を専門としない教員であることがあげられる。教育現場や今後需要が大きくなると思われる教員養成講座にとって有益な情報を提供するためには、現状を把握することが不可欠であると考えられる。

では、実際に小学校で外国語活動を指導する教員は英語で何が出来なければならないのだろうか。小学校教員は、どの程度の英語力を持っているのであろうか。語彙はどの程度知っていて、実際にコミュニケーションの中でどれほどの語彙を使うことが出来るのであろうか。残念ながら、これらの疑問についてはこれまで調査が行われていない。また、日本で教育を受けている小学校高学年の児童の言語能力、特に日本語以外の言語の「音」・「語形」・「意味概念」を結びつける能力やカタカナ英語に対する知識は活動や指導のあり方に直接影響を与える変数であるが、これらの点についても明らかでない点が多い。

2. 研究の目的

本研究は、小学校英語教育や教員養成講座に有用な情報の一部として、外国語活動をする際に教員に求められる語彙や表現を提供することを目的としている。具体的には、
 (1)小学校外国語活動に従事する教員に求められる語彙・表現の調査
 (2)児童の言語能力及び語彙知識の調査
 (3)教室英語資料の分析を通して、コミュニケーションの素地を育成するための外国語活動を行う際に指導者が事前知っておくべき英語語彙や教室英語表現を調査や資料から収集し、指導基準とされる『英語ノート』を補完する役割を担う語彙・表現集のための基礎データの収集
 の3つを主な目的とした。

3. 研究の方法

本研究は研究者を「教員・児童のニーズ分析班」、「児童の語彙知識調査班」、「教室英語資料分析班」の3つのグループに分けて研究を行った。それぞれのグループが研究全体の目的に沿って研究課題を設定し、研究グループ全体からの意見聴取を繰り返して研究を進めた(図1)。

「教員・児童のニーズ分析班」は、小学生が使用する教科書で使用されているカタカ

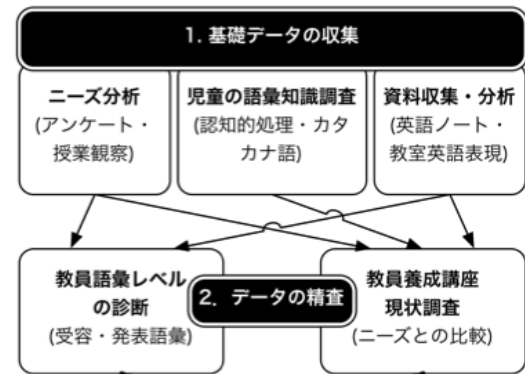


図1 研究組織および調査の方法

ナ語を全て抜き出し、その語源や使用回数などについての調査を行った。また、デジタルカメラで小学校周辺のアルファベット表記のある看板を撮影し、分析を行った。

「児童の語彙知識調査班」は「音声と意味」・「音声と文字」・「文字と意味」のつながりの強さを調査するため、独自のテストを開発し、小学5・6年生を対象にテストを実施した。

「教室英語資料分析班」は『英語ノート』や他の英語教材にどのような表現が含まれているかについて調査するため、小規模のコーパスを作成し、その分析にあたった。

4. 研究成果

まず、語彙・表現に関するニーズ分析については、外国語活動が行われる直前の学年である4年生の国語・算数の教科書及び道徳の副読本にどのようなカタカナ英語が含まれているかを調査し、効果的な教科間の連携を行う可能性について調査した。その結果、高頻度の英語語彙と重複するカタカナ英語が上記教科・科目の中で使用されている割合が高いことが明らかとなった。ここから、教科書にカタカナ英語が出現した場合に、それらが英語として使用することができることを示唆する工夫をすることによって、国語や算数、道徳などの学習からスムーズに外国語学習に移行できる可能性が示唆された。しかしながら、指導者にはこれらのカタカナ英語を英語の単語として紹介できる十分な知識と技能、またはそれらを身につける研修等が必要とされると思われる。また、一見英語のように感じられる和製英語もみられ、児童はこれらが英語でないことを判断することは難しいと思われることから、指導者が誤解を軽減することが求められる。そのためには、指導者は日頃から学校内の日常に存在する和製英語や英語以外の語源に由来する外来語に注意しておく必要があることが示唆された。

また、児童が学校周辺の地域でであっているアルファベット表記の語に関する調査で

は、大都市・大都市周辺の都市・観光地・田園都市にある10校の小学校周辺にあるアルファベット表記の語について、その種類や数を調査した。各小学校を起点とし、4方向に1キロメートルずつの範囲に存在している看板や標識をデジタルカメラで撮影し、分析を行った。その結果、地域によって看板や標識の数に違いが認められ、大都市及びその周辺都市の小学校が上位を占め、これらの学校に通う児童は通学の途中で多くのアルファベット表記文字に慣れ親しんでいる可能性が示唆された。また、10校の平均のアルファベット表記看板は、89件であった。

さらに、看板や標識の種類分析では、商業看板や商業店舗、そして道路標識に多くのアルファベット標識が見られることが明らかとなった。

小学生がすでに持っている英語語彙知識の調査では、「文字」「音声」「意味」のそれぞれのつながりの強さを測定するテストを開発、実施した。このテストは音声を聞いてその語が表す絵や写真を選ぶ問題・音声を聞いて正しい綴りを選ぶ問題・綴りをみてその語が表す絵や写真を選ぶ問題の3種類の問題で構成されている。このテストを5・6年生の児童に実施し、「音声と意味」・「音声と文字」・「文字と意味」のつながりの強さを調査した。その結果、「音声と意味」には他の組み合わせよりも強く、このつながりの中でも特にカタカナ英語についてはより多くの「音声と意味」の組み合わせをすでに蓄積していることが明らかとなった。

児童用英語教材の表現分析では、前置詞を含む表現とwh-句についての分析を行った。教材を『英語ノート』とその他の教科書に分けて比較を行った場合、前置詞の重要フレーズや定型表現にみられる重複が多くないことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 相澤一美・磯達夫. 小学校周辺で児童が見かけるアルファベット風景. (2012). 日英言語文化研究, 3, 13-26. (査読有)
- ② 笠原究, 町田なほみ, 長田恵理, 高梨庸雄, 吉澤小百合. (2012). 小学校5,6年生の語彙知識: 音声, 意味, 文字の結びつきに関して. JES Journal, 12, 90-101. (査読有)
- ③ 仁科恭徳, 長谷部郁子, 神谷昇, 平田恵理. (2012). 『英語ノート』と小学生用英語教材における「定型表現」の一考察.

新学習指導要領に対応した英語教育—小中のかげはしとなる理論と実践—, 1, 42-52. (査読有)

- ④ 相澤一美・磯達夫. (2011). 小学校4年生教科書及び副読本に使用されているカタカナ英語の分析. 小学校英語教育学会紀要, 10, 37-42. (査読有).

[学会発表] (計3件)

- ① 笠原究・町田なほみ・長田恵理・高梨庸雄・吉澤小百合. 小学校5,6年生の語彙知識: 音声, 意味, 文字の結びつきに関して. 第11回小学校英語教育学会 大阪大会. 2011年7月18日. 大阪教育大学.
- ② 相澤一美・磯達夫. 小学校4年生教科書及び副読本に使用されているカタカナ英語の分析. 小学校英語教育学会第10回北海道大会. 2010年7月19日. 北海道工業大学.
- ③ 神谷昇・長谷部郁子・仁科恭徳・平田恵理. 児童英語教育における定型表現: 『英語ノート』と国内児童英語教育用教材との比較を中心に. 第3回 JACET 英語語彙研究会・英語辞書研究会合同研究大会. 2010年12月11日. 早稲田大学.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

磯 達夫 (ISO TATSUO)
麗澤大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 40438916

(2) 研究分担者

笠原 究 (KASAHARA KIWAMU)
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 50439006

仁科 恭徳 (NISHINA YASUNORI)
立命館大学・言語教育センター・講師
研究者番号: 00572778

平田 恵理 (HIRATA ERI)
福岡女学院大学・人文学部・講師
研究者番号: 40572293

(3) 連携研究者

相澤 一美 (AIZAWA KAZUMI)
東京電機大学・工学部・教授
研究者番号: 00222448

山崎 朝子 (YAMAZAKI ASAKO)
東京都市大学・環境情報学部・教授
研究者番号：80298017

吉澤 小百合 (YOSHIZAWA SAYURI)
星薬科大学・薬学部・講師
研究者番号：50528057